【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】平成22年4月2日(2010.4.2)

【公開番号】特開2009-54523(P2009-54523A)
【公開日】平成21年3月12日(2009.3.12)
【年通号数】公開・登録公報2009-010
【出願番号】特願2007-222475(P2007-222475)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｊ　29/86　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　 9/26　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　31/12　(2006.01)
Ｈ０１Ｊ　11/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｊ　29/86　Ｚ
Ｈ０１Ｊ　 9/26　Ａ
Ｈ０１Ｊ　31/12　Ｃ
Ｈ０１Ｊ　11/02　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成22年2月12日(2010.2.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３４】
１段階目の紫外線硬化樹脂３９のみを塗布し硬化したものと、２段階目の外周部へのインジウム塗布を行ったそれぞれのＦＥＤ基板において、電源を用いてカソード電極３６とアノードの間に３ｋＶの電圧をかけた時に生じる蛍光体発光の輝度を分光器で測定した。表１に０時間のときの輝度で規格化したときの２４時間後、７２時間後の輝度割合を示す。紫外線硬化樹脂のみの封着では７２時間後には点灯しなかった。一方、本発明の封着方法では７２時間後でも９０％以上の輝度を保つことができている。本発明の方法でも７２時間で約９％の輝度劣化が見られているが、これは簡易パネルを作製したため蛍光体の塗布条件も最適でない可能性があり、封着性能に関わる劣化でない可能性も考慮する必要がある。封着部を通して水蒸気の拡散に関して拡散時間は拡散距離（樹脂の塗り幅）の２乗に比例するので、例えば、樹脂塗布前に十分に脱ガスした樹脂を１㎜幅で塗布しＵＶ硬化した後、脱ガスした樹脂を３０㎜で塗布しＵＶ硬化すると外壁に到達した水蒸気がパネル内に混入するのを約１０００倍遅らせることができる。
〔表１〕

	規格化発光輝度（％）		
基板形態	初期（０時間）	２４時間経過後	７２時間経過後
バリア層なし	１００	６５	発光せず
バリア層あり	１００	９６	９１